

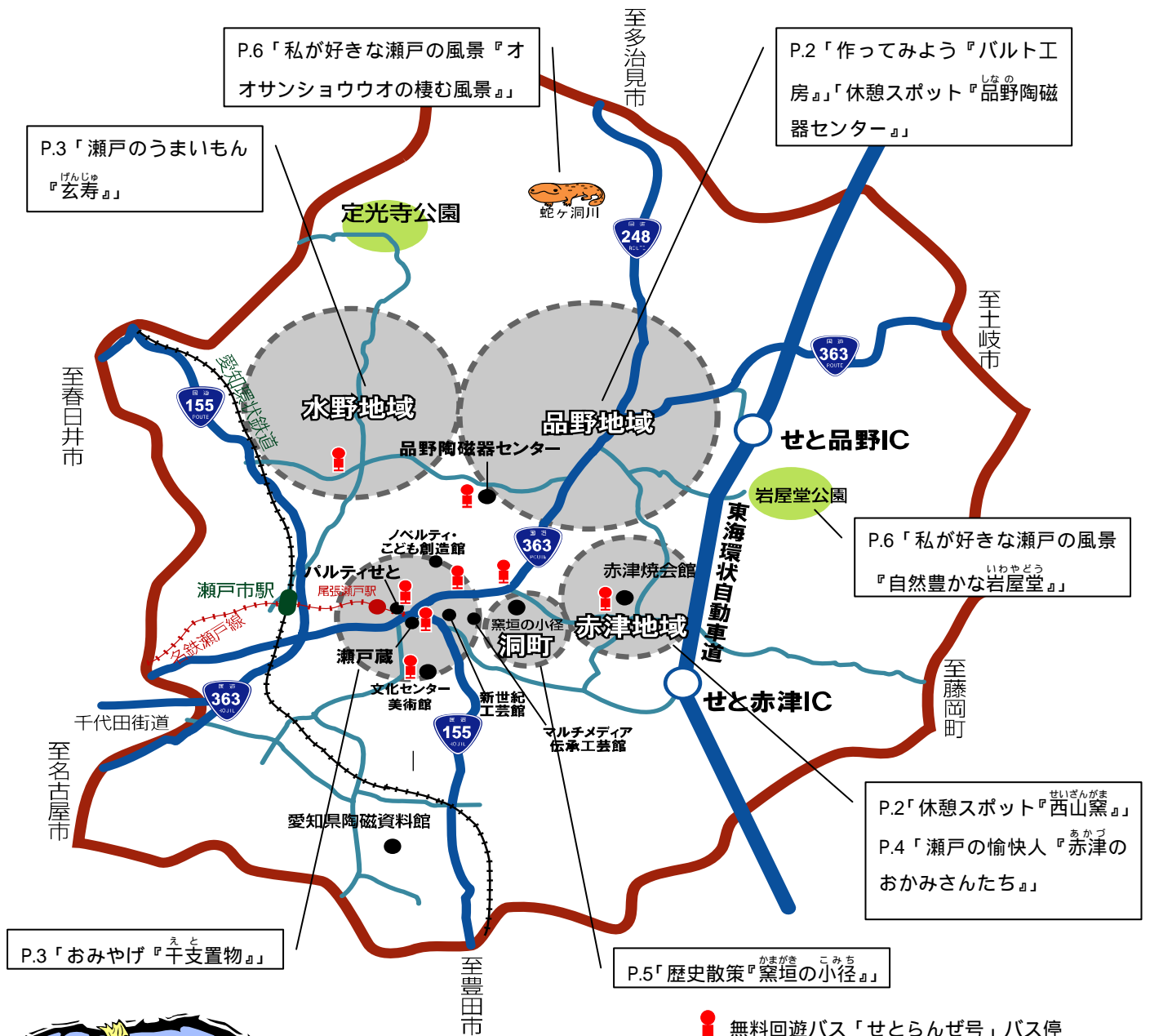
# よきてちょーた瀬戸!

「ようきてちょーた」=瀬戸弁で「よく来てくれたねえ」の意味

作成:瀬戸市おもてなしボランティア  
季刊誌作成チーム  
発行:瀬戸市 まるっとミュージアム課

02 平成18年10月30日発行

## 瀬戸の”やきものの処”特集



11月11日(土)・12日(日)は「まるっとミュージアム大回遊」につき、  
中心市街地～<sup>ほらまち</sup>洞町～<sup>あかつ</sup>赤津～<sup>しなの</sup>品野～<sup>みずの</sup>水野を巡る無料回遊バス「せとらんぜ号」がご利用いただけます！(9:00～17:00の1時間に2本)  
(詳しい時刻表は尾張瀬戸駅前パルティセと内おもてなしボランティアブース等でお配りしています。)



## 「作ってみよう私の作品」

～瀬戸で一度はガラス制作体験を！～

ガラス制作の体験ができる

### バルト工房

住所:八床(やどこ)町112

電話:(0561)41-3535

時間:10:00～17:00

休み:なし

ホームページ:<http://www.baltkobo.com/>

備考:定員45名。予約必要。(当日予約可・12:00まで受付)車でのアクセスは、国道248号線品野町6丁目信号西へ1.5km。駐車場10台有。なお、工房名の「バルト」は、バルト海周辺の北欧諸国で、クラフトが上手に生活に取り入れられていることから名づけられている。



今回は、愛知県内で最も歴史のあるガラス工房「バルト工房」で吹きガラスの体験をした。ここでは「吹きガラスでグラス作り」「サンドブラスト」「ガラス絵付け」「トンボ玉作り」などが体験出来るが、私は吹きガラスで「一輪ざし」に挑戦。ガラス作家の季末 竜<sup>りまるりよん</sup>氏に手取り足取り教えていただきながら、なんとか作成した。約1250度に溶けたオレンジ色のガラスの固まりに「サオ」を使い口から息を吹き込みながら形を整えるのだが、吹き加減や、押える箇所、力の加え加減が難しい。とにかく火が熱いのと、刻々、形が変化するガラスと時間との戦いである。”ガラスは生きもの“のようで、自分が頭で描いていた模様がどのように変化するかが、面白くもあり、ガラスの力強いエネルギーを感じた。(松本)



## 「ちょっとひと休み」おすすめ休憩スポット

～『品野<sup>しなの</sup>陶磁器センター』& 赤津<sup>あかづ</sup>『西山窯<sup>せいざんがま</sup>』～

今回は11/11・12の“まるっとミュージアム大回遊”にちなんだご紹介です！無料回遊バスもご利用できます！！

**品野地区**：『品野陶磁器センター』は、即日作陶が可能な陶芸教室・ギャラリー・レストラン・窯元直売店・広い駐車場があり、瀬戸陶芸協会の作品が展示・即売されています。作家さんが作った高価な物から手頃なお土産品まで種類も豊富で、見るだけでも楽しく、一休みすることができます。



**赤津地区**：窯めぐりで歩き疲れたら、赤津焼会館から徒歩5分、赤津交差点近くの交番を北方すぐの

『西山窯<sup>せいざんがま</sup>』で一休み。細い路地を進むと、どこかペンションを想わせるような大木に囲まれた、こぢんまりとした隠れ家的なカフェギャラリーがあります。窯元の奥様手作りのみつ豆とアップルパイがお勧め、土日みの営業です。(大脇)





## 「これが瀬戸のうまいもん」

～瀬戸っ子も納得の味『<sup>てうち そばきり げんじゅ</sup>手打蕎麦切 玄寿』～



見た目も楽しい「蕎麦三昧」の品々  
もりそば、デザートも付いて2,100円

子供の頃、父親がそばを美味しそうに食べるのを不思議に思いながらみていました。いつの頃からか、自分もそばが美味しいと思うようになり、当時の父の気持ちがわかりました。そこで今回は十割そばで有名な玄寿<sup>げんじゅ</sup>さんを訪問です。「そばは香りが命である」店内にはそんな店主の思いが込められた言葉が掲げてあります。早速蕎麦三昧<sup>そばさんまい</sup>セットを注文すると、赤津焼の器に盛られた蕎麦とうふ、蕎麦入りサラダなどまさに蕎麦三昧が登場。そばはつなぎ無しの十割で黒と白の2種類があり、殻付きで挽いたものが黒、殻無しが白。もりそばは時間が経って味が落ちないように、

直前に配膳されました。こだわりの心配りを無駄にはならぬと、出されるや否やすぐに口へ。これがまあなんと美味しいこと。少し辛めのつゆがそば本来の味と香りを浮き立たせます。取材であることを忘れてもう一枚もりそばを追加してしまいました。そばの香りってどんな香りだったか？と思われたあなた、食べればわかります。「国内産の玄そばのみを石臼で時間をかけて自家製粉し、そばの本当の香りと味を知っていたため、つなぎ無しの100%で仕上げる」お品書きの宣言通り、大人だけにわかる素朴な味わいを堪能できるお店です。(蒲谷)



香り豊かな十割蕎麦。できたてをどうぞ！  
もり十割そば単品注文可。1,050円/枚

<sup>てつち そばきり げんじゅ</sup>「手打蕎麦切 玄寿」

〔住所〕 穴田町 636 〔電話〕 (0561)48-7177

〔営業時間〕 11:00～17:00 (蕎麦がなくなり次第終了) 10歳未満入店不可

〔定休日〕 金曜(祝日の場合は営業)〔座席〕 25席 〔駐車場〕 7台



## 「瀬戸に来たらこれ買わなきゃ！」

～瀬戸の名物おみやげ～



これはほんの一部。あなたならどの亥を選ぶ？

## <sup>え と</sup>干支置物 <sup>いのしし</sup>～来年は亥～

2007年も間近になってきた今日この頃に、瀬戸のおみやげとしておすすめするのが「<sup>え と</sup>干支置物」。来年は「<sup>いのしし</sup>亥」で、無病息災を願い、勇気と冒険を象徴するとされています。また、かわいいウリ坊のように「子宝」の象徴でもあり、とっても縁起がいいものです。瀬戸で作られた干支置物は、日本全国に出荷されていて、多くの家庭や会社で飾られているんですよ。その置物を、産地ならではの豊富な品揃えから選ぶのも楽しいのではないのでしょうか。愛知県陶磁器工業協同組合の店「<sup>せとくら</sup>瀬戸蔵セラミックプラザ」では、約100円から20,000円までの幅広い価格帯で、様々な表情をもった亥の置物が購入できます。贈る人の顔を思い浮かべながら、選んでみてくださいね!!(藤掛)

<sup>え と</sup>干支置物のお求めは

〔住所〕 <sup>くらしよちやう</sup>蔵所町1-1(瀬戸蔵1階) 〔電話〕 (0561)89-5758

「<sup>せとくら</sup>瀬戸蔵セラミックプラザ」 〔営業時間〕 10:00～19:00 〔定休日〕 年末年始(瀬戸蔵が臨時休館のときは休み)



# 見つけた！瀬戸の愉快人 ～縁の下の力持ち?! 赤津・窯元のおかみさん達～

赤津にある窯元のおかみさん達が自分ちから飛び出して、銀座通りで作品を展示販売する「ギャラリー楓」を作りました。そのおかみさんとは、飽津窯の宮地香さん、飛鳥窯の中島奈緒子さん、菊陶園の加藤順子さん、西山窯の山口慎子さん、棚橋淳陶房の棚橋康美さん、てしごと屋の安藤喜代子さんの6名。お店の運営から接客まですべて自分達で行っています。自宅に咲いた草木を使った四季折々を感じさせるディスプレイや、魅力を知り尽くした自分たちの器を組み合わせるテーブルコーディネートは、おかみさんならではのセンスのよさが光ります。「こうやって個性の違う窯元が協力してやっていけるのは女性ならではの。男同士ではきっとムリね。」と笑って話すのは宮地さん。どのおかみさんも、気さくにお話して下さいますので、作品の表から裏までしっかり教えてもらいながら、十分吟味してここで作品を購入するもよし、情報を仕入れて赤津で窯めぐりをするのもよし、ちょくちょくのぞきに行きたいお店です。(深田)



飽津窯 宮地香さん

てしごと屋 安藤喜代子さん

飛鳥窯 中島奈緒子さん

”赤津・窯元のおかみさん達”

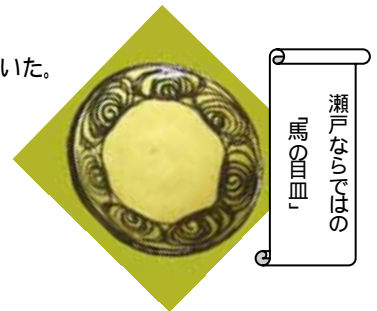
「ギャラリー楓」 (住所) 朝日町 17 (営業時間) 10:00～18:00 (休み) 水曜日

## あなたもこれでちょっとしたやきもの通?! 【やきもの豆知識探偵団】 「せともの」とは…?



全国的に、陶磁器のことを「瀬戸の物 = “せともの”」といますが、これは瀬戸で作られた焼物が昔から日本全国で使われていたからなんです。瀬戸の焼物が大量生産でき、日本全国への流通が可能となったのには次のような背景があるとされています。

- 古くから施釉(うわぐすりのかかった)陶器を焼成していて、高い技術が蓄積していた。
- 世界でもまれに見る良質の原料土が瀬戸で採れた。
- 大窯を使った量産体制が早い時期に出来上がっていた。
- 約 1,100 年前から絶えず焼物が作られ、技術向上への努力がなされていた。
- 瀬戸は日本の中央部に位置し、大阪・京都・江戸の消費地に運搬しやすかった。
- 尾張徳川藩の手厚い保護を受けていた。



「せともの」という言葉が全国に広まったのも、やはり瀬戸で磁器の生産が始まり大量に全国の市場に出回るようになった江戸時代後期以降ではないかと推察されます。同じ江戸時代に、有田を中心として九州の唐津からも陶磁器が多く出荷されていたため、主に西日本では陶磁器のことを「せともの」ではなく「からつもの(唐津物)」と呼んでいました。しかし、江戸時代より遥か昔から、釉薬のかかったやきものをずっと作り続けていた産地は瀬戸のみで、日本のやきものルーツと言っても過言ではないでしょう。この瀬戸のやきもの歴史を詳しく知りたい方は、ぜひ「瀬戸蔵ミュージアム」にお越しください。展示を通じて、「瀬戸焼千年の歩み」をご覧くださいませ。(郡山)

「瀬戸蔵ミュージアム」 (住所) 蔵所町 1-1(瀬戸蔵2階) (開館時間) 9:00～18:00(入館は 17:30 まで)  
(定休日) 年末年始(瀬戸蔵が臨時休館のときは休み) (入館料) 一般 500 円、高校・大学生・65 歳以上 300 円

# 瀬戸の歴史体感スポット

ほんぎょうやき かまがき こみち  
～ 本業焼（陶器）の歴史探訪「窯垣の小径」～

尾張瀬戸駅の前を流れる瀬戸川を上流（東）に向かって約1 km歩くと、洞町の西入口にある「宝泉寺」に着きます。この寺の前から洞町のほぼ真中に至るまでの約400 mの小径を通称「窯垣の小径」と言います。窯垣とは登り窯、石炭窯を焼くときに使用する製品保護の為にエングロや製品を効率よく並べる為のツク、タナイタ等の窯土道具の廃材を利用して作った擁壁（石垣の代わり）の総称で、通りの家ごとに工夫して組み立てられています。



民家の擁壁が美しい窯垣



窯垣と窯垣資料館

窯垣の幾何学模様の美しい仕上がりが周囲の静かな風景にマッチし、やきもの最盛期の瀬戸の一時代を画した歴史の生き証人として面影を見ることができます。また、「窯垣の小径」には明治時代の本業焼（陶器）窯元の家を改修した「窯垣の小径資料館（仲洞町39）」があります。ここでは、明治初期の西洋建築導入とともに逸早くこの窯場で焼かれた「本業タイル（陶製のタイル）」や、すり鉢、馬の目皿、石皿等が展示されています。

さらに小径を100 m程歩くと、瀬戸市指定有形文化財の「瀬戸（洞）本業窯」に辿り着きます。この窯は4連房式の登り窯で、昭和54年まで実際に使われていました。「自然」と「窯場」が同化したこの「洞町」の「窯垣の小径」は瀬戸陶磁器産業の歴史を知る上での絶好のおすすめポイントですので、是非とも皆様お出かけ下さい。（丸山）



登り窯「瀬戸（洞）本業窯」

（一口メモ）「本業焼」とは？

瀬戸では元々陶器の生産が盛んでしたが、江戸後期になって磁器生産も行われるようになり、元来行われていた陶器生産のことを「本業焼」、後から行われるようになった磁器生産を「新製焼」と呼んでいます。

## 私が好きな瀬戸の景色

I Love SETO. Because ...

西暦 725 年大きな岩の洞窟に仏像を安置し「岩屋薬師堂」としたのが岩屋堂の始まりとされています。



## ～その1・自然豊かな岩屋堂～

瀬戸には自然がいっぱいありますが、今回は「岩屋堂」をご紹介します！



祠の周りには溪流が流れ、風や水、木々が新鮮で、爽やかな自然を 1,2 時間の散策で満喫させてくれます。

夏は川をせき止めた天然プールを楽しむ子ども連れの家族でにぎわいましたが、11 月から 12 月初旬は紅葉が楽しめます。やきもの散策と共に自然あふれる「岩屋堂」もぜひお楽しみください。（白川）

## ～その2・オオサンショウウオの棲む風景～

瀬戸市には、天然記念物のオオサンショウウオが 2 千年の時を悠々と生活している場所があります。その場所を訪ねると、そこかしこにあるありふれた葎に覆われた小さな小川があるだけ。全国的に河川の汚染が進むなか、その小川には山からの清流が溢れ、餌になる沢蟹や小魚が豊富で、オオサンショウウオが生息できる貴重な場所となっています。



オオサンショウウオの棲む「蛇ヶ洞川」



生きた化石を大切に见守って！

そして、共に生活していくために、地元の人を中心に組織された「瀬戸サンショウウオを愛する会」と環境 NPO や行政が協力して清掃活動や護岸整備などの生息環境の保全活動を行っています。瀬戸を訪れた際には、天然記念物が棲む風景を眺め、自然と人間、焼き物と人間がどのようにかかわりを持っているかを考えるのも良い機会になるのではないのでしょうか。（道満）

《編集後記》「ようきてちょーた瀬戸！」第 2 号では市街地周辺を特集しましたが、瀬戸に住んでいても改めて気づく瀬戸の魅力が多くありました。少々アクセスの悪いところもありますが、ぜひ大回遊の無料シャトルバスを利用して、隠れたまちの魅力発見と地元の方との交流を楽しんでください。（事務局・藤掛）

（瀬戸市おもてなしボランティア事務局）

瀬戸市役所 まるっとミュージアム課 〒489-0813 瀬戸市蔵所町1-1

TEL: 0561-88-2541 FAX: 0561-97-1557 E-mail: marutto@city.seto.lg.jp

